ca. 2.5 mm longa 4 mm lata.

Herb. Upper Burma. Kahao, Luhit Valley, 28°18′ N 97°0′ E, 4000-5000 ft. Flowers purple. A small shrub growing in thickets or in open situations in pine forest. F. Kingdon Ward 7658. — Holotype in K (sheet I).

I am indebted to Mr. J.P.M. Brenan and Dr. R.M. Polhill of the Herbarium, Royal Botanic Gardens, Kew, for their kind help.

*　　*　　*　　*

11) 新種 *Campylotropis luhitensis* (図1 & 2) を記載した。前報で扱った中部ヒマラヤ特産の *C. macrostyla* に最も近縁と思われるが，アッサムの *C. Thomsonii* や雲南の *C. argentea* にも似ている種で，葉の裏面に銀毛が密生し，花序の苞は宿存性で，花と莢は小形である。

□Hamaya, H.: **Landscape of Japan,** I & II　浜谷浩：日本の自然　上・下，pp. 146+XIV pls. 77, map 1, pp. 150+XIV pls. 88, map 1。国際情報社，東京 (1975 II & XII) 各 ¥15,000。写真家浜谷氏が16年かかって撮った写真集で，取材は27の国立公園，24の国定公園にわたっている。著者は少しでも人工にもとずくものを印画面には入れないという，強い純粋な撮影であるときいているが，たしかに写されたものはあくまで天然であり自然である。しかし正直のところ森林や植物は比較的少なく，岩場と海と空とがうつっていることが多いのは，日本の国立公園の規模の小さいことを示しており，それに加った人口圧の強さを問わず語りしたものと思われる。生態学者の宮脇昭君の記事は熱烈な自然保護の必要を訴へ，小林国夫氏の「日本列島の生いたちと景観」は新らしい見方を示す。植物の写真がやや少ないとはいっても，雌阿寒岳紅葉，藻琴山原生林，阿寒樹間細流，サロベツ原野数葉，八甲田の数葉，雄田沼，尾瀬原の数葉，富士の中腹と森林限界，大白川，大山南壁，西表や小笠原の数葉などにすぐれた植物学的景観を見出すことができる。なお附置された日本の潜在自然植生図及び現存植生図の二つはまことに注意を惹く地図であって役立つであろう。上巻は東日本，下巻は西日本を扱うが富士山は両方に含まれている。また各執筆者の文章は一々英訳されている。　(前川文夫)